

資質・能力を育む

主体的・対話的で深い学び



— 中学校編 —

令和2年2月

飛驒教育事務所

《 目 次 》

はじめに	・・・・・・・・・・	1
手引きを活用した授業改善	・・・・・・・・・・	2
○ 中学校及び義務教育学校（後期課程）		
【国 語】	・・・・・・・・・・	4
【社 会】	・・・・・・・・・・	5
【数 学】	・・・・・・・・・・	6
【理 科】	・・・・・・・・・・	7
【音 楽】	・・・・・・・・・・	8
【美 術】	・・・・・・・・・・	9
【保健体育】	・・・・・・・・・・	10
【技術・家庭】	・・・・・・・・・・	11
【外 国 語】	・・・・・・・・・・	12
【総合的な学習の時間】	・・・・・・・・・・	13
【生活単元学習】	・・・・・・・・・・	14
（参考）授業改善レポート	・・・・・・・・・・	15

はじめに

飛騨教育事務所

教育課程講習会を終えて間もない頃、全国学力学習状況調査の結果分析を行いました。顕著に見えてきたことがあります。今年はとくに、全国平均正答数の下位 25% を占める割合が減少しており、いわゆる「底上げ」が図られ、その結果、地区全体として高い正答率を示していることです。

これは、飛騨地区において、ここ 10 年来大切に取り組んできた「終末からの授業改善」によって、どの子にも目指したい姿を具体的にはっきりとイメージして授業をされてきた先生方の努力の賜物に他なりません。飛騨教育事務所としても、今後も、さらに先生方と一緒に授業改善を推進していきます。その際、活用するものの一つが、この「資質・能力を育む主体的・対話的で深い学びの手引き」です。昨年度発行して以来、先生方からも感想やご要望をいただいております。その中に次のようなものがありました。

「終末にどんな姿になっていけばよいか考えて授業を改善してきたつもりなのですが、導入で『主体的な学び』、展開で『対話的な学び』ということになると、とても毎時間そこまでできません。どうしたらよいでしょう…」

教育課程講習会でもお伝えしてきたように、「主体的・対話的で深い学びは、必ずしも 1 単位時間の授業の中で全てが実現されるものでは」（学習指導要領「総則編」より）ありません。しかし、こんなふうに真剣に授業改善に向かっていらっしゃる先生方に、日頃から、無理なく、手応えを感じながら使っていただけるものをお示しいた。

このように考えて、早速、改善にとりかかりました。まずは、昨年度の内容を、さらに具体的に子供の言葉や意識等のイメージとともに示すことを考えました。その上で、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、随時チェックできるような形で表そうと、学校の先生方とも意見交流をしつつ、試行錯誤を重ねました。

そして、できあがったものが、今回の＜第 2 版＞です。

ぜひ、週案簿に貼るなどして活用していただき、子供たちの資質・能力育成につながる実践の一助にいただけたらと願っております。

効率的・効果的な「働き方改革」

手引きを活用した 授業改善

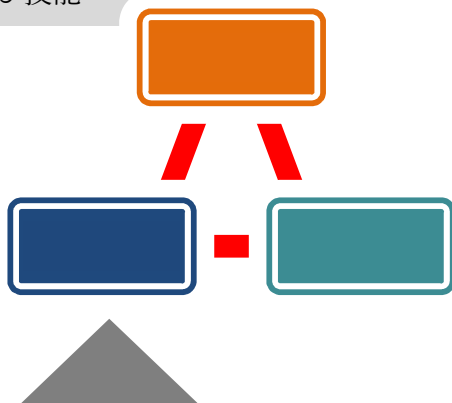
こんな悩みはありませんか？

- ✓ 「主体的・対話的で深い学び」？・・・
- ✓ “授業改善” ってどうやれば・・・
- ✓ 指導計画や指導案作成は時間が・・・
- ✓ 週案簿が備忘録になっている・・・

単元（題材）を通して育みたい 資質・能力を決めだす 1

単元や授業の終末に
「何ができるようになるか」を
明らかにしましょう。

- ・ 学びに向かう力、人間性等
- ・ 思考力、判断力、表現力等
- ・ 知識及び技能



教育経営簿(週案簿)に 手引きを貼る 0

まずは、
授業改善に取り組みたい教科の
「手引き」を
週案簿等に
貼りましょう。

デジタル版は
飛騨教育事務所
Web サイトから
ダウンロード
できます。



週案簿等を使って 計画を立てる 2

手引きの**視点**や**ポイント**を参考に
資質・能力を育むために
「どのように学ぶか」と考え
講じたい**手立て**を週案簿等に
記入しましょう。

※単元の中で数時間程度を選択
して計画を立てましょう。

The sample page is titled '算数' (Mathematics). It features a timeline at the top showing the progression from '指導計画' (Instructional Plan) to '授業実践' (Lesson Practice). The main content is divided into two sections: '視点' (Viewpoint) and 'ポイント' (Points). The '視点' section includes a checklist for '主体的・対話的で深い学び' (Deep learning through active and dialogic learning). The 'ポイント' section lists key points for lesson improvement, such as '新たな問いを見いだす' (Finding new questions) and '筋道を立てて説明し合い考えを整理する' (Organizing thoughts by explaining and listening to each other). The page also includes a QR code and a note about the digital version available on the website.

1 時間の授業のみを考えるだけでは、十分ではありません。

単元(題材)を見通して、考えることが大切です。

「各時間でどのような資質・能力を身に付けるのか。」

「そのために、この時間ではどのような手立て(指導)を講じるのか。」

「資質・能力」と「主体的・対話的で深い学び」

豊かな創造性を備え持続可能な“社会の創り手”となることが期待される児童生徒に、生きる力を育むことを目指すに当たって、各教科等の指導を通して育成すべき資質・能力がある。これが、「何のために学ぶのか」という学習の意義を問う声に対する「何ができるようになるか」という回答を示している。そして、その資質・能力を育むための学びの質に着目し、「どのように学ぶか」と授業改善の取組を活性化していく視点として位置付けられたのが「主体的・対話的で深い学び」である。（参考：学習指導要領 総則編）

週案簿等を使って

授業を振り返る

3

授業を実施したら

視点を参考に

子どもの姿で振り返りましょう。

不十分さを感じたときは、

ポイントを参考に、

改善策を考えましょう。

一人で悩まず

改善策を共有する

4

振り返ることで改善した指導法や

授業改善に対する悩みを

校内研究会や教育課程研究協議会等で

他の教諭と共有し、より質の高い授業改善につなげましょう。

2年A組 数学科

いろいろな連立方程式
・問題提示の前に、どのような問題が考えられるか
いける。(Check6)

【授業前】手順2

授業改善に取り組もう
とする時間をいくつか
決めて、視点と手立て
を記入しておきます。

【授業後】手順3

子どもの姿で振り返り、不十分さを感じた時は、改善策を記入しましょう。

ひき算のひっ算(第3時)
筆算形式と図を関連
付けて説明させる。
(Check4) △
関連付けることで理解が
深まるというよさを伝える。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善レポート(仮)

〇〇市立〇〇〇小学校 飛驒 花子

単元名:		学年:	
単元（題材）で育みたい資質・能力			
学びに向かう力 人間性等			
思考力、判断力、表現力等			
知識及び技能			

実施日 ◎ 9/12	時間・主な内容 ◎ 第2時（2けた）×（1 けた）の筆算	視点 ◎ Check3	振り返り（不十分さや改善点を簡潔に記入） ◎・筆算の手順を説明するだけになってしまった。 ・図を根拠に、図と筆算を線で結びながら話すように 指示したい。

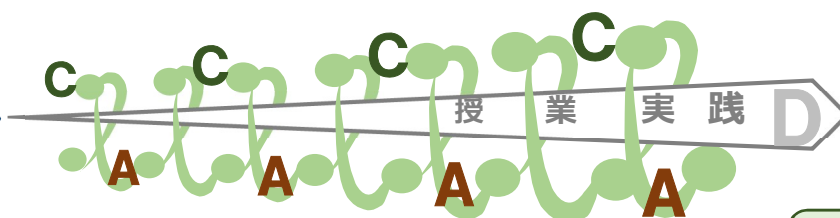
飛驒教育事務所では、教育課程研究協議会において、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善レポート(仮)を持参していただき、授業改善に関する実践交流を実施します。
また、学校訪問においても、先生方の授業改善に関する悩みに対する支援も行っています。

いつも同じ過程で授業を行うのでは、十分ではありません。

「主体的・対話的で深い学び」の視点から、各時間のねらいによって過程が工夫できるよう、振り返ることが大切です。

P 指導計画

終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

生徒の
つぶやきや
様相から Check!



「こんな風に話してみたい！」
「どう書いたら伝わるかな？」
「なんでこんな表現があるの？」

□ Check 1

- ・単元や1単位時間の導入時に学ぶ必然を感じていたか。

「この話し方・書き方は～で使うとうまく伝わりそうだ。」
「～、だからこの表現なんだ！」

□ Check 6

- ・他教科や領域、日常につながる喜びや可能性を感じているか。

「今までに学んだことをまとめて考えてみると…」

□ Check 5

- ・既習内容と結び付けてまとめた誰の発言で深まったかを明らかにしたりしてまとめられているか。

「よし！～すればできそうだ。」
「自分たちの力で解決し切るぞ。」

□ Check 2

- ・ゴールを想像し見通しをもつことで、解決する道筋や意欲がもてたか。

「〇〇さんとの意見と比較すると～」
「それは～ということですか？」

□ Check 3

- ・仲間の考えを基に、自分の考えを明確にしたり確認したり修正したりしているか。

「△△と□□という表現をつなげてみると～が読めませんか。」
「一度話してみるのでも聞いてもらえますか。」

□ Check 4

- ・新たな視点を投入して深めているか。
- ・自分の考えを再考するなど、より確かな考えになっているか。

A 授業改善のポイント

☞ (Check 1) 課題に必然を感じるためには

- ・日常生活などから話題やテーマを取り上げ、育てたい資質・能力(指導事項)を明確にした言語活動を設定し、生徒の興味・関心や知的好奇心を喚起することが大切です。

☞ (Check 2) 単元・1単位時間の見通しをつかむためには

- ・単元の出口をイメージできるように、視覚資料や音声資料など前年度に取り組んだ資料を提示したり教師がモデルを示したりするなど具体的に想起できる物を準備しましょう。
- ・読むこと領域では「どのような視点」で読むのか、追究する視点を明らかにすることが大切です。

☞ (Check 3) 仲間の考えを基に、自分の考えを明確にしたり修正したりするためには

- ・自分の考えと仲間の考えを比較して考えたり自分の考えに付け足して考えたりして広げる場を設定しましょう。
- ・対話した後に自分の考えについて確認したり修正したりする場を設定することが大切です。

☞ (Check 4) 自分の考えを再考するなど、より確かな考えにするためには

- ・仲間の考えを比較・検討したり考えをより確かなものにするために「本当にそうなのか」といった問いかけをしたりすることで深く考えることができます。
- ・言葉による見方・考え方を働かせ、出てきた考えが教材や仲間のどの言葉の意味、働き、使い方に着目しているのかを明らかにすることが大切です。

- ・それぞれの単位時間で「本時のねらいを振り返る場面」と、「学習を振り返る場面」を設定することが大切です。
- ・なぜ理解できたのか、考えが変わったのかを自覚させることは、「どのような考え方で思考していけばよいのか」といったことがわかり、さらに学びたいという意欲をもつことができます。

☞ (Check 5) 既習内容と結び付けて考えるためには

- ・課題解決に生かせる既習内容を吟味し、それと結び付けて考える学習を設定しましょう。
- ・自分のノートやプリントが、常に使える状態にしておくなど、既習内容が活用できたりメモを取れたりするようにしておくことが大切です。

☞ (Check 6) ※飛騨地区の重点はココ！終末に実感を。

- 学ぶ喜びや日常につながる可能性を感じるためには
- ・学んだ内容が、実際にその後の他教科、領域の学習に結び付くことが肝要です。
- ・日常生活や社会生活で使える実感をもたせるために、新聞に投書したり保護者に書いたりして「書いてよかった」という実感をもたせましょう。
- ・文学的文章、説明的文章のそれぞれの読解の仕方を明確に学び、同じ作者の文章や同じテーマの文章を「読んでみたい」と思わせるようにしましょう。

ここに示したものは、あくまでも一例です。周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

生徒の
つぶやきや
様相から Check !



- ・社会的事象から疑問や矛盾を見いだしていたか

「～のはずなのになんで…。」
「どのように～してるんだろう。」
「私たちはどうすればいいか。」

- ・課題解決の見通しがもてていたか

「～から調べれば
分かりそうだ。」

- ・多面的・多角的に考えていたか

「〇〇の側面からは～。」
「〇〇の立場からすると～。」

- ・学習したことを振り返っていたか

「～が分かった。」「身の回りでも」
「今日は～から考えることができた。」
「私は～していきたい。」

- ・ 仲間の考えと自分の考えをつなごうとしていたか

「〇〇さんの考えと似ていて～。」

「〇〇さんの考えと違って～。」

「初めは～と思っていたけれど、
○○さんの発言を聞いて…」

- ・立場や根拠を明確にして考えを説明していたか

「〇〇という予想から

考えて～。

「〇〇の資料の～から…」

- ・社会的な見方・考え方を働かせて課題解決に向かっていたか

「〇〇という場所だから～。」 「〇〇と比べると～。」
「〇〇という時代だから～。」 「〇〇とつなげると～。」
「まとめると～。」

👉社会的事象から疑問や矛盾を見いだすためには

- ・ 社会的事象と既習内容や生活経験との関連を図りながら、具体的な読み取りをさせる。
- ・ 驚きや疑問を出し合い、疑問の内容を明確化し、仲間と共有する。

- 👉課題解決の見通しをもつためには

- ・既習内容や導入の資料、生活経験が予想の根拠になることを指導し、根拠ある予想がもてるようにする。その際、予想を交流する場を位置付けるなど、一人一人が予想をもてるようにする。
- ・追究の視点や課題解決に必要な情報を明らかにする。

- 👉 社会的な見方・考え方を働かせて

事象をとらえるためには

- ・生徒が空間、時間、相互関係などの視点に着目して社会的事象を捉えられるように「問い」や「資料」を工夫する。
- ・比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりして考えるように促す。

- 👉 立場や根拠を明確にして考えを説明するためには

- ・どの資料のどの部分から考えたのか、また、どの立場から考えたのかが曖昧な場合は問い返していく。

- ☞ 仲間の考えと自分の考えをつなぐためには

- ・自分の考えと仲間の考えとの共通点や差異点を明確にして聞くことを指導し、反応する力を育てる。
- ・生徒同士のやりとりを促す教師の働きかけを行う。
- ・「わかりました」「なるほど」などの反応でよしとするのではなく、「本当にわかっているのか」、「どこになるほどと思ったのか」を問い返し、確かめていく。

- 👉 多面的・多角的に考えるためには

- ・ 取り上げる社会的事象にどんな側面があるのかを分析し、多面性を捉え、どんな角度（立場）から生徒に捉えさせるのか明らかにする。
- ・ 根拠となる資料の情報が客観的な情報であるかを吟味して提示資料を考える。
- ・ 「既習内容と」「他の資料からわかる事実と」「仲間の考えと」「自分の生活と」等比較したり関連付けたりしている姿を価値付ける。
- ・ 構造的な板書によって、視覚的に分類を捉えさせたり、総合的に捉えさせたりしていく。

- 👉 学習したことを振り返るためには

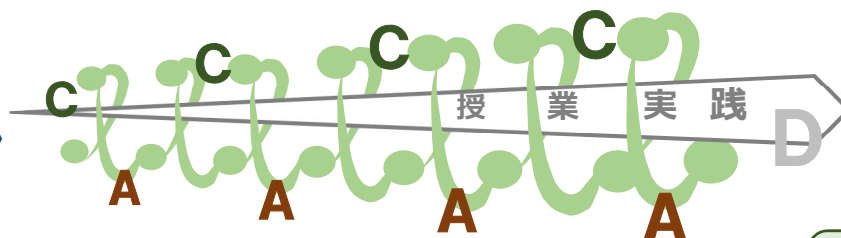
- ・一単位時間や単元全体を振り返って、自分の学びや変容に気付かせ、次の学びにつなげていくようにする。

ここに示したものは、あくまでも一例です。
周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編な
ども参考にして授業改善を図りましょう。



P 指導計画

終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

(単位時間だけでなく単元を通して)

新たな問いを
見いだしていたか

☐ Check

論理的に説明し合い
考えを理解していたか

☐ Check

よりよい考えに
高めようとしていたか

☐ Check

問題に出合ったとき、

「うん？これまでとは違うぞ！」と

課題をもち

「これまでのことを使えば・・・できそうだ」と

課題から結論までの見通しをもち

「なぜなら・・・」「式のことを図でいうと・・・」などと

根拠をはっきりとさせ

表現を関連付けながら

仲間と考えを確かなものとし

「条件を変えると・・・」

「より簡単に」

「まとめると・・・」と

統合的・発展的に考え

粘り強く振り返りながら

課題を解決する

課題から結論までの
見通しが

もてていたか

☐ Check

数学的な表現を
柔軟に用いて表現して
いたか

☐ Check

既習の知識と
関連付けて
まとめていたか

☐ Check

生徒の
つぶやきや
様相から Check !



A 授業改善のポイント

☞ 新たな問いを見いだすために

「これまでと違うことは何かな」と問いかけたり、
生徒が相違点や類似点から新たな問いを見いだす姿を
価値付けたりしましょう。

…数学は系統的な学問です。既習内容との相違点や類似点に目を
向けることで、新たな問いが生まれます。問題に出合ったとき
に、題意を理解するだけでなく、既習内容と比べて問いを見いだ
す習慣を付けることが大切です。

☞ 論理的に説明し合い考えを理解するために

相手に自分の考えが正しいことを伝えたり、
自分の考えの足りない部分を指摘してもらったりするなどの
説明し合う場を保障しましょう。

…考えが正しいかどうかを判断するには、「根拠をはっきりしてい
るか」「課題に対する結論になっているか」などの視点を生徒に
示す必要があります。また、なぜそう考えたのか「目的」を確認
しておくことも重要です。

例：「(目的) 1元1次方程式にするために、(根拠) 等式の性質
を使って、①の式から②の式を引くと文字が1種類減らすこと
ができました。だから、(課題に対する結論)減らしたい文字の絶
対値の係数を揃えて、加えたり引いたりすれば1元1次方程式
として解くことができる。

☞ よりよい考えに高めるために

数学のよさを生徒に伝えましょう。

よさを求める姿を価値付けましょう。

…数学のよさには、明確性(根拠をはっきりしている)、有用性(役
に立つ)、簡潔性(より簡単)、一般性(いつでもいえる)などが
あります。よさを知ることによってよさを求める姿につながります。

☞ 課題から結論までの見通しをもつために

同様の課題解決の過程が無いかを想起させましょう。

…数学では、同じような課題解決の過程が繰り返されます。既習
の内容を想起し、相違点から課題を明らかにするだけでなく、
課題解決の過程も想起し、解決方法の見通しにつなげることが
大切です。

どこまで自分で考えるのかを明確にしましょう。

…数学では、答えを求めて満足してしまう生徒もいます。課題に
対する“結論”の見通しまでもたせることで、考えができたこと
を自分でも判断できるようになります。

☞ 数学的な表現を柔軟に用いて表現するために

「このことを式で言う・・・」などと多様な表現を関連付けて
説明する姿や、「錯覚は等しいから・・・」と適切な表現を用いる姿
などを価値付けましょう。

…生徒は曖昧な表現による説明をすることがあります。数学で
は、式や図、言葉などで多様に表現します。生徒には、多様な
表現を関連付けることで理解が深まることや、適切な表現がで
きなかったり関連付けられなかったりする部分は理解が不十分
であるなど、表現することの価値を伝えることが大切です。

☞ 既習の知識と関連付けてまとめるために

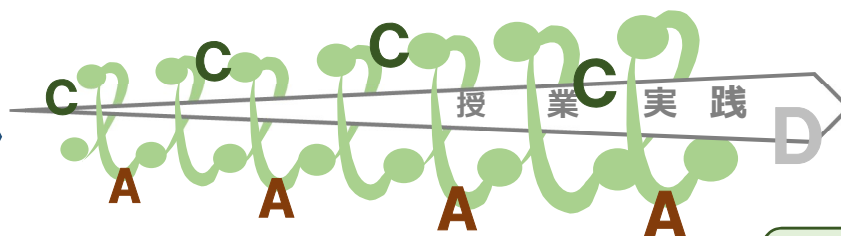
・論理的に考えることで、考えが確かなものになります。その根
拠を共通にもつ既習の知識と関連付けて考えたり、条件を変え
てより一般的な考えに高めたりしていくことができます。その
ように、考えを統合的・発展的にまとめていくように指導する
ことが大切です。

ここに示したものは、あくまでも一例
です。周りの仲間の実践や、学習指導
要領解説編なども参考にして授業改善
を図りましょう。



P 指導計画

終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

生徒の
つぶやきや
様相から Check !



C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

□Check 5

・「理科の見方・考え方」を、日常生活などにおける解決の場面で働かせることができたか

「今日の学習は、日常生活の～なところに使われていたのか！」

□Check 4

・仲間と意見を交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりすることができたか

「～さんの結果に付け加えて…」、「～さんの考えと違って…」、「～さんと～さんの意見をモデルで表してみると…」

「本当に、この考え方でいいのかな?…」

□Check 3

・結果を分析し解釈して仮説の妥当性を検討したり、全体を振り返って改善策を考えたりすることができたか

□Check 2

・見通しをもって、仮説を設定し、観察、実験の計画を立案することができたか

「～の観察・実験を行えば、問題（課題）を解決できそうだ！」

「この問題は、○年生の◇◇の学習と関わりがありそうだ！」

□Check 1

・自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって課題を設定することができたか

A 授業改善のポイント

☞Check 1

自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって課題を設定することができるようにするためには

- ・学習内容の系統性を明らかにした単元を構成すると、育成する資質・能力につながる要素（理科の見方・考え方や学習内容等）が明確になり、単位時間のもつ意味や、単位時間の相互の関係性が見えてきます。学習内容の系統性・順序性・発展性をイメージして単元構想図を作成していきましょう。

☞Check 2

見通しをもって、仮説を設定し、観察、実験の計画を立案することができるようにするためには

- ・事象提示を工夫し、問題を見いださせ、課題を設定させて、具体物で追究できるようにしていきましょう。
- ・自分の立てた予想や仮説が正しければどうなるのかという見通しまで明確にさせることが、自分事の課題解決につながります。

☞Check 3

結果を分析し解釈して仮説の妥当性を検討したり、全体を振り返って改善策を考えたりすることができるようにするためには

- ・生徒が、自分の考えを「理由」や「根拠」に立脚しながら主張したり、他者の考えなどからその妥当性や信頼性を吟味したりすることなどをもとに、自分の考えを見直し、必要に応じて改善できる時間や手立てを講じていきましょう。

☞Check 4

仲間と意見を交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりすることができるようにするためには

- ・科学的な根拠を基に、仲間の意見に対して、自分の考えは同じなのか、少し視点が違うのか、違う意見なのかを聞き分けながら聞き、自分の考えの立場を明確にして、図や表、モデル等を活用して、次の発言につなげていきましょう。

☞Check 5

「理科の見方・考え方」を、日常生活などにおける解決の場面で働かせることができるようにするためには

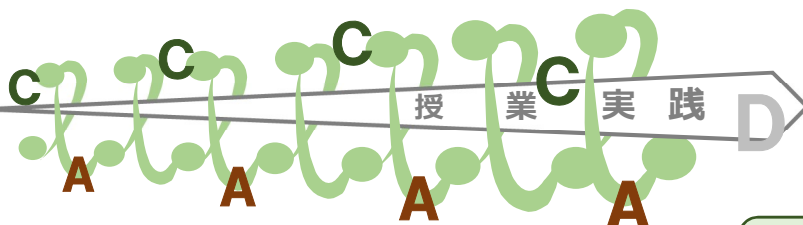
- ・課題に対するまとめを行い、一般化する終末で、日常生活や社会とつなぐ具体物を提示して学習内容を活用できる時間を確保しましょう。



ここに示したものは、あくまでも一例です。周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。

P 指導計画

終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

生徒の
つぶやきや
様相から Check !



「〇〇の所から～な感じがする」
「ここからはずむ感じがするのは、
途中からリズムが細くなるから」

□ Check 1

- ・聴き取ったこと（知覚）と感じ取ったこと（感受）を関わらせながら考えているか

「なぜこう感じるのかな」
「こんなふうに歌ってみたい」
「もっとよい表現にしたい」

□ Check 2

- ・願いや憧れのある出会いから、必然性のある課題になっているか

「〇〇の学習を活かせば、
できそうだな」

□ Check 3

- ・学習の見通しがもっているか
- ・学びのつながりを意識しているか

「旋律が上下に動くところで波の強さを
表現したいから、息をたっぷり吸って
クレッシェンドをつけて歌ってみよう」

□ Check 4

- ・考え、思いや意図をもっているか
- ・試行錯誤し、思考、判断しながら音楽活動に粘り強く取り組んでいるか

「もっと〇〇したらどうかな？」
「～なっているか、演奏して確かめよう」

□ Check 5

- ・仲間との交流で表現を確かめながら、よりよい表現に近づくために、どうするとよいかを考えているか

「できた」
「最初は～だったけど、強弱を
工夫すると、より伝わる演奏
になることが分かった」

□ Check 6

- ・何ができたか、どう変わったかを実感できているか

A 授業改善のポイント

※ここに示した視点は、「A 表現」領域の視点（例）です。
6つの視点に順序性はありません。

☞ 1 聴き取ったこと（知覚）と感じ取ったこと（感受）を関わらせながら考えるためには

- ・題材を貫く音楽を形づくっている要素とその働きについて、イメージや感情と関連付けて考えるために、「なぜそう感じたの。」「どの部分からそう感じるの。」などと問い返し、音楽を捉える視点や考え方を明確にしながら要素を焦点化することが大切です。
- ・2つを関わらせて考え、交流したことを板書に構造的に示して全体で共有するように工夫しましょう。

★これは、音楽的な見方・考え方を働かせる深い学びにつながります。題材や1単位時間を通して、この視点（要素）に着目した学びが進むように、教師の見届けや言葉がけが必要です。

☞ 2 願いや憧れのある出会いから、必然性のある課題にするためには

- ・「新しい音や音楽との出会い」「前時との違い」「意図的な比較範奏」「表現と思いや願いとのずれ」など、ねらいや出口（終末）の姿を明確にする導入を工夫することが大切です。

☞ 3 学習の見通しをもつ・学びのつながりを意識するためには

- ・既習学習との関わりや要素の働きに着目し、どの要素に着目するかを「視点」として示し、どのように音楽で表現するか「方法」や「条件」を明確にすることで、生徒が出口の姿を具体的にイメージできるようになります。

☞ 4 自分の考え、思いや意図をもち、試行錯誤し、思考、判断しながら音楽活動に粘り強く取り組むためには

- ・表したい表現に向かって感じ取ったことや想像したことを、言葉で伝え合うことと実際に演奏して試すことを繰り返す中で、思いや意図が膨らむように、変容を見届け価値付けることが大切です。
- ・言語活動と音楽活動の往還の中で視点を手掛かりに考えていけるように、教師の問い返しや意図的な指導で表現を見直したり、比較したり、よさを実感したりしながら考えを更新していくことが、主体的に試行錯誤する姿につながります。

☞ 5 仲間と交流しながら表現を確かめ、よりよい表現に近づくためにどうするとよいかを考えるためには

- ・仲間と交流や工夫をする時は、視点や、どのように交流するとよいかを具体的に示すことが大切です。
- ・めざす表現に向かっているか、どのようにしたらよいかを生徒が自ら気づいていけるように、互いに聴き合う場や教師がよさを価値付け共有する場などを位置付けることが大切です。

☞ 6 何ができたか、どう変わったかを実感するためには

- ・何が変わったか、できたかを、本時の課題や視点をもとに振り返るように示したり、ワークシートを用いたりするなど工夫することで、自分の学びが実感できます。
- ・言葉で振り返るだけでなく、実際に音や音楽で確かめたり、導入の演奏と聴き比べたりする場を位置付けることが大切です。

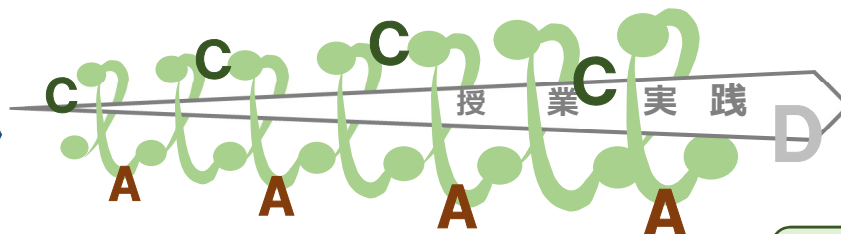
ここに示したものは、あくまでも一例です。
周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。



「B 鑑賞」領域でも、☞Check 1をもとに要素に着目して聴き、よさを味わったり曲想と音楽の構造との関わりに気付いたりすることができる学びにしましょう！！

P 指導計画

終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

「友だちはどうしているかな」
「そんな表し方(見方)もあるのか」

Check 3

・困ったときには、友だちの活動や作品を自由に見たり、友だちに相談したりしながら制作しているか

「こうすればできそうだ」

Check 2

・活動の過程や出口をイメージし、見通しをもつことができたか

「〇〇を描き(つくり)たいな」
「すてきだ(面白い)な」

Check 1

・表したいことを見つけているか
・作品など対象のよさや面白さを感じているか

「日常生活でも新しいものを
作り出したいな」
「美術は生活を豊かにして
いるんだな」

「〇〇な感じを表すことが
できたぞ」
「いろいろな見方ができて
楽しかったな」

「これはどうかな」
「これもやってみよう」

Check 4

・表現形式や技法、材料や用具、資料などを選択しながら、表現や鑑賞を追求しているか

Check 6

・新しいものを創り出した喜びを実感しているか
・生活や社会での美術の役割を感じているか

Check 5

・活動を振り返り、自分や友だちの表現または見方や感じ方のよさを味わっているか

生徒の
つぶやきや
様相から Check !



A 授業改善のポイント

創造性(新しいものを生み出す力)を大切にする美術科では、特に **Check 4** の意識や姿が重要です。発想が行き詰った時こそ、さらに自ら新しい表現を求める姿を生み出すことが大切です。

そうした姿を生み出すために、まずは題材の導入で、教師の示範作品などを見せながら **Check 2** の意識や姿を生み出します。その時も、示範作品よりも面白いものを考え、新しいものを創り出すことのねうちと楽しさを伝えることが大切です。

1 (1) 表したいことを見つけるためには

・生徒自身の体験や心の内面を深く見つめたり、身近な人や環境、さらには社会全体に目を向けたりしながら、一人一人が表したいもの(主題)を見つけさせることが大切です。

1 (2) 対象のよさや面白さを感じるためには

・視点を示したり、生徒が見つけた視点を価値付けたりすることで見方・感じ方を広げることができます。

2 見通しをもつためには

・「自らの思いや願いとのずれ」「新しい表現や美しいもの、面白いものとの出会い」などから自分の課題や学習状況を判断させることができます。また、資料だけでなく、生徒の活動レベルで教師の示範を見せることが大切です。

・例えば線の「太さ」「長さ」「方向」など、表現のための工夫のポイント(造形の要素)または鑑賞するための視点を示すことが大切です。

・小学校からの学びの系統性を把握し、これまで学んだことが生かせるようにすることが大切です。

3 困ったときに、友だちの活動や作品を自由に見たり、友だちに相談したりするためには

・班隊形で活動(表現)することで、必要に応じて仲間の表現を見たり、互いに教え合ったりすることができます。
・鑑賞では、班に1枚の作品を配付し、自分の見つけたことを付箋で貼ることで、自然な交流を生み出すことができます。
・毎時間ではなく、生徒が「表したいことを十分表したり、自分の見方で十分鑑賞したりしたとき」または「これ以上どうしたらいいか困っているとき」などには、生徒の必要感を捉えて友だちと交流する時間をとることが有効です。

4 表現形式や技法、材料や用具、資料などを選択しながら追求するためには

・主題と表現とのつながりを問いかけることが大切です。
・より質の高い目標をもたせ、失敗してもつくり直す経験をさせ、乗り越える満足感と自信をもたせることが大切です。
・鑑賞では、何かを見付けるだけでなく、「作品全体からのイメージ」を感じ取ることが大切です。

5 自分や友人の表現または見方や感じ方のよさを味わうためには

・デジタルカメラ等で保存した前時の作品と比べる(何をやったかだけでなく、どのような感じになったかを感じ取る)ことで、表現の変容を実感させることができます。

6 (1) 新しいものを創り出す喜びを実感するためには

・他とは違うその生徒だけの表現(見方や感じ方)を価値付けることで、どの生徒も新しいものを創り出すねうちを感じ、さらに追求する意識が高まります。また、さらにやりたいこと(次時の課題)を見つけさせることが大切です。

6 (2) 生活や社会での美術の役割を感じるためには

・特にA表現(1)イの題材の出口では、作品を家で使ったり地域で広く見てもらったりするなどの設定により、相手意識をもたせるとともに、生活や社会での美術の役割を感じさせることができます。

ここに示したものは、あくまでも一例です。
周りの同僚の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。



保健体育

P 指導計画
終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

生徒の
つぶやきや
様相から Check !



「もっと運動したい!」「あの競技のことをもっと知りたい!」「運営ボランティアとして大会に参加してみたい!」

□Check 6 生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するために、運動やスポーツに親しみ、実践しようとしている

「〇〇に気を付けてやったらできたよ!うまくなったよ!次は、◇◇に挑戦してみよう!」

□Check 5 「目指す姿」を達成するために試行錯誤したことを、その運動やスポーツがもつ
価値や特性、『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けていたか。

「やった!できた!」
「もう一回やってみよう!」
「こうやって、やってみたらできるかな。」

□Check 3

課題解決に向けて自ら粘り強く取り組み、学習を振り返って、課題を修正したり新たな課題を設定したりしていたか。

「できるようになりたい!」

「勝ちたい!」「記録を伸ばしたい!」

□Check 1 運動への憧れや挑戦意欲をもっていたか。

「もっと、こうするといいよ。」
「私は、～に気を付けてやっているよ。」
「見てるよ!」「補助するよ!」

□Check 4

仲間と動きを見合ったり補助をし合ったりして、動きや技のポイントを見付けたり、よりよい解決に向けて思考したり判断したりしたことを伝えていたか。

「動きのポイントはこれだな!」「〇〇に気を付けて練習しよう!」

□Check 2 単元や本時の「目指す姿」を達成するための見通し
（「課題」「技術ポイント」「練習方法」）をもっていたか。

A 授業改善のポイント

☞□Check 1 運動への憧れや挑戦意欲をもたせるためには

- ・単元及び1単位時間のねらいを明確にしましょう。
- ①生徒の実態を三つの資質・能力から丁寧に把握しましょう。
- ②単元及び1単位時間の終末の生徒の姿を、学習指導要領解説に示された内容から、具体的に描きましょう。
- ・生徒が学びたいこと（できるようになりたい!勝ちたい!記録を伸ばしたい!）と、教師が指導したいことを合致させた課題を設定しましょう。
- ・「段階表」「勝敗表」「記録表」などの学びの足跡から、前時までの学びをより発展させる課題を設定しましょう。
- ・どの子どもが、三つの資質・能力を身に付けられるよう、様々な練習場所を設定したり、プレイヤーの人数、コート広さ、用具、プレイ上の制限などを工夫したりしましょう。
- ・教師の示範やVTR映像で「目指す姿」を視覚的に提示し、生徒の「すごい!やってみよう!」の意欲を喚起しましょう。

☞□Check 2 単元や本時の「目指す姿」を達成するための見通し（「課題」「技術ポイント」「練習方法」）をもたせるためには

- ・「目指す姿」「技術ポイント」「練習方法」を、言葉や絵図・VTR映像・教師の示範などで提示しましょう。
- ・運動全体と部分の動きを理解させるために、擬態語や擬音語を使って課題を提示しましょう。

☞□Check 3 課題解決に向けて自ら粘り強く取り組み、学習を振り返って、課題を修正したり新たな課題を設定したりさせるためには

- ・個に応じたスモールステップの課題（易しい→難しい、全体→部分、量→質など）をもたせましょう。
- ・動きの高まりを実感できる場面（発表会、競技会、ゲームなど）を設定しましょう。

☞□Check 4 仲間と動きを見合ったり補助をし合ったりして、動きや技のポイントを見付けたり、よりよい解決に向けて思考したり判断したりしたことを伝えさせるためには

- ・動きを見る視点を示し、「自分のイメージと実際の動き」「仲間同士の動き」などを比較（共通点、相違点）させましょう。
- ・ICT機器を活用し、動きを視覚的・客観的に観察させましょう。
- ・生徒達の集団性を段階的に育成しましょう。
- STEP1:リーダーの指示や仲間の呼びかけに従って行動できる集団
- STEP2:進んで教え合い、励まし合って行動できる集団
- STEP3:一人一人に課題を要求し合い、要求に応え合って行動できる集団
- ・仲間が安心・安全に練習できたり、仲間に運動の感覚を掴ませたりするための補助の仕方を指導しましょう。

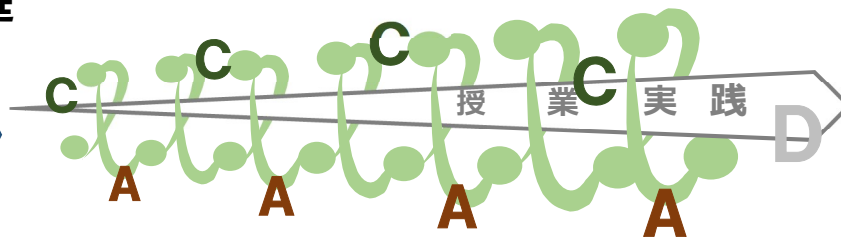
☞□Check 5 「目指す姿」を達成するために試行錯誤したことを、その運動やスポーツがもつ価値や特性、『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けさせるためには

- ・運動のできばえ、勝敗、記録、と「目指す姿」「課題」「技術ポイント」「練習内容」「仲間との関わり」を関連付けて学習を振り返らせましょう。次時の課題と見通しももたせましょう。

☞□Check 6 生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するために、運動やスポーツに親しみ、実践させるためには

- ・体力向上やスポーツに親しむことを目的とした活動を、生徒会活動などで企画、運営させましょう。また、学級や異学年の縦割りグループなどで「チャレンジスポーツ in ぎふ」に挑戦してみましょう。
- ・オリンピック・パラリンピック、様々なスポーツイベント等の紹介をする掲示コーナーを設置しましょう。

P 指導計画
終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

□ Check

・生活から問題を見いだしたか

「生活（社会）をみてみると」

□ Check

・実践的・体験的な活動を通して課題を追及していたか

「（実際に）やってみると、
みてみると」

生徒の
つぶやきや
様相から Check !



□ Check

・課題の解決に向けて設計・計画したか

「どうすればよいだろうか」

□ Check

・他者に対話したり協働したりしていたか

「その視点では」

□ Check

・学習過程を振り返って実践を評価・改善していたか

「改善（工夫）するには」

必ずしも
1 単位時間で実現
するものではなく、
題材全体を通して
この視点を大切
にして授業を構成
してください。



□ Check

・自らの考えを明確にしたり、広げ
深めたりしていたか

「（意図を）読み取ると」〈広まる〉
「例えば」〈深める〉

□ Check

・見方・考え方を働かせて、解決に
向けて取り組んだか

「〇〇の視点から考えると」

A 授業改善のポイント

☞生活から課題を見いだすためには

- ・日頃から自分の生活が家庭や地域社会と深くかかわっていることを認識したり、自分が社会に参画し貢献できる存在であることに気付いたりする活動に取り組んでいく必要がある。

☞解決に向けて課題を設定するには

- ・具体物を用いた資料提示や憧れをもてるような示範を行い、生徒の追究意欲を引き出すことができるようにするとよい。

☞実践的・体験的な活動を通して課題を追及するためには

- ・生徒の発達の段階や学習のねらいを考慮して、**製作、制作、育成、調理等の実習や、観察・実験、見学、調査・研究**などそれぞれの特徴を生かした適切な学習活動を設定することで効果的な指導が可能になる。
- ・画一的な方法を提示するのではなく、様々な方法で追究できるように**教材や学習環境を充実**させたり、**複数の追究方法から選択**して取り組んだりできるように準備をしていくことが必要である。

☞他者に対話したり協働したりするためには

- ・知識及び技能の習得の場面では、作業や手順のポイントを示し、そのポイントに従ってアドバイスをするなど、他者との対話や協働ができるような仕組みを作っておくことよい。
- ・直接、他者との対話を伴わなくとも、設計や計画に込めた意図をよみとることも対話的な学びである。

☞自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりするためには

- ・対話活動の中で、自らの考えを「広げる」とは「入力（聞く、読む）」、「深める」とは「出力（話す、書く）」という視点で取り組むとよい。

☞学習過程を振り返って評価・改善するためには

- ・これまでの学習過程の中で常に評価・修正を行い、元に戻ったり進んだりを繰り返すように指導していく必要がある。

☞見方・考え方を働かせて課題を解決するためには

- ・課題解決に向けて収集した情報を「社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性」「協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等」の視点から**技術を最適化したり、よりよい生活を営むために工夫したりする**ように促す必要がある。

☞自己の変容を振り返るためには

- ・学習したことを「社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性」「協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等」の視点から評価改善することができるように、まとめの視点を明らかにして提示する必要がある。

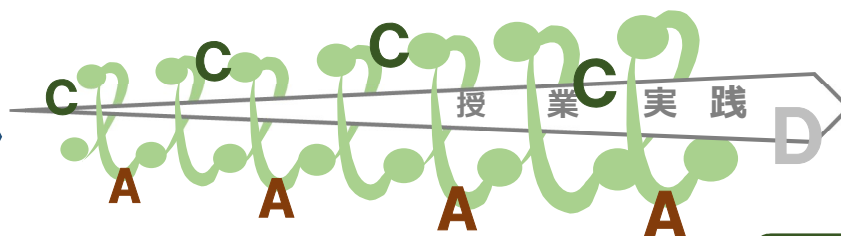
※青枠が重点

ここに示したものは、あくまでも一例です。
周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。



P 指導計画

終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

生徒の
つぶやきや
様相から Check !



□Check 5

・「英語を使ってできるようになったこと」を自覚させているか

□Check 4

・内容面と言語面の伸びを生み出す活動後半か

S: Hello. My name is Hida Taro in Takayama JHS. We want to tell you good food in Hida. Please give us time.

I think Hida beef is good because it's very delicious. Do you like beef? Hida beef is best beef in Japan I think. If you try Hida beef, it will be one of good memory for you.

□Check 3

・内容の質を高める中間交流・指導になっているか

T(S)What is the goal? (目的に立ち返る) T(S)Why is Hida beef good? (内容を膨らませる)

T(S)Can foreigners eat beef? (場面、状況の確認)

□Check 1

・目的や場面、状況等がある言語活動を設定しているか

「外国人に飛騨の魅力を伝えるのだな」

「飛騨ならではの食べ物や場所などを PR したいな。」

□Check 2

・既習内容を想起させる活動前半であるか

S1:I think Hida beef is good.

S2:Nice. I think Gasyo style house is good.

A 授業改善のポイント

☞Check 1

目的や場面、状況等がある自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の設定 (内容が先、英語が後)

「飛騨の魅力を PR する」⇒目的を加えましょう。

「不定詞を使って、飛騨の魅力を PR する」⇒言語材料はあくまでコミュニケーションを支えるものであり、伝える内容を重視しましょう。

<一例>

目的: 飛騨の魅力を世界に広めるために

場面: 高山市内研修での外国人へのインタビューの場面で

状況: 観光客に飛騨の魅力を PR する

◆生徒の意欲や主体性を生み出します。

☞Check 2

既習内容を想起させる活動前半 (活動が先、指導が後)

・J T E (教科担任等) と A L T と生徒とのやり取りを通して、本時の活動の目的や目指す姿を明らかにします。生徒を巻き込みながら、やり取りすることが大切です。

・最初に指導するのではなく、まずは言語活動に取り組ませ、その後生徒の学習状況を見届け、必要に応じて指導します。

◆既習内容の想起や主体性につながります。

T:What is the good food in Hida?

S: Hida beef, Tsukemono steak, mameita, Sushi,

T: Nice. What is the good place in Hida?

S: Old town. Shirakawa-go, Gero spa, Furukawa station.

T: What are these things interesting for foreigners?

S: Hida beef, Old town and so on.

T: Let's tell good things of Hida to foreigners!

☞Check 3 (飛騨地区の重点)

内容の質を高める中間交流・指導

・前半の活動で把握した生徒のよさ (内容面や言語面) を共有したり、共通のつまづきや誤りを修正したりします。言語材料の定着や共通する誤りの修正だけでなく、内容面のよさや高まりに焦点をあてた交流・指導を行いましょう。

◆内容の質の高まりや正確さの向上につながります。

☞Check 4

内容面と言語面の伸びを生み出す活動後半

・「外国人にどんな飛騨の魅力を伝えることができたのか」という視点で指導と振り返りを行いましょう。(内容面)

・「外国人に飛騨の魅力を伝えるために、どの既習表現が使えるのか」という視点で指導と振り返りを行いましょう。(言語面)

◆英語で思考・判断・表現しながら知識・技能を身に付けていく授業の具体が実感できます。

☞Check 5

「英語を使ってできるようになったこと」の自覚

・Small Talk の継続や単元終末や学期のまとまりにおいて、目的や場面、状況等が明確なパフォーマンステストを行いましょう。(例) アメリカからの留学生に自分の学校生活を説明する

・単元終末や学期のまとまりにおいて、「英語を使ってできるようになったこと (学習到達目標・CAN-DO リスト)」を視点に振り返りましょう。

◆生徒の英語力の把握とコミュニケーションを図る (基礎となる) 資質・能力の育成につながります。

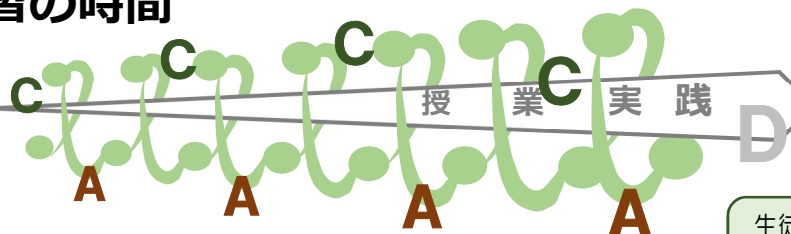
ここに示したものは、あくまでも一例です。周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。



総合的な学習の時間

P 指導計画

・終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

□ Check2

- ・自らの考えを広げ、深めているか
「なるほど」「そうだったのか」
「〇〇ということが分かった」
「〇〇については、どうなっているのだろうか」

課題の設定

まとめ・表現

情報の収集

整理・分析

□ Check4

- ・学んだことが関連付けられて知識及び技能が構造化しているか
「グラフで表すと変化の様子が分かりやすいな」

□ Check1

- ・自分の事として探究課題を設定しているか
「なぜだろう」「おかしいな」
「すごい」
「どうしてそんなことができるのかな」

□ Check3

- ・協働的に学んでいるか
「こんな理由があるから、自分と〇〇さんの考えは違うんだな。」
「やっぱりこれでいいんだな」

A 授業改善のポイント

☞自分の事として探究課題を設定するには (Check1)

- ・生徒の実生活や実社会の問題の中から探究課題を設定することで、生徒が身近な問題として考え、学習活動に取り組むことができます。
- ・生徒が探究活動の終末のイメージとそこに至るまでの見通しをもつことができるようにすることが必要です。
- ・探究課題を設定するときに、生徒が自身の経験や考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じたり、対象への「憧れ」や「可能性」を感じられたり、探究課題について考える必然性を感じたりして、生徒の学ぶ意欲を高めることが大切です。

☞自分の考えを広げ、深めるためには (Check2)

- ・新聞などにまとめて学習活動を振り返ることで、自らの学びを意味付けたり、価値付けたりすることにつながります。また、新たな学びに向かう意欲にもつながります。
- ・振り返る活動は、単元の終末に位置付いていることが多いのですが、探究の過程で行うことも、これからの学びの方向を考える点で意義があります。
- ・これまでの学習活動を振り返り、体験したことと収集した情報や既存の知識とを関連させ、自分の考えとして整理し、それを自覚したり共有したりすることが大切です。

☞協働的に学ぶためには (Check3)

- ・様々な考えや意見、情報をたくさん入手し、それらを手掛かりに子ども同士が自分の考えをやり取りしながら考える場を位置付けることが必要です。その際に、比較する、分類する、関係付けるなどの「考えるための技法」を用いることが有効です。このような場を通して、生徒が自身の考えの変容を自覚したり、自分の考えに確信をもったりすることが大切です。
- ・探究課題は、自力で解決できるものではなく、様々な人の考えを聞いて解決に向けて考える課題を設定する必要があります。

☞学んだことが関連付けられて知識及び技能が構造化するためには (Check4)

- ・例えば、総合的な学習の時間で調べたことを、算数で学んだグラフを使って表すことで、グラフを使う状況の理解につながります。このように、子どもがそれまでに学んだことを基に、知識を構造化して深く理解して探究的な学びを進め、新しい知識を創造することが大切です。

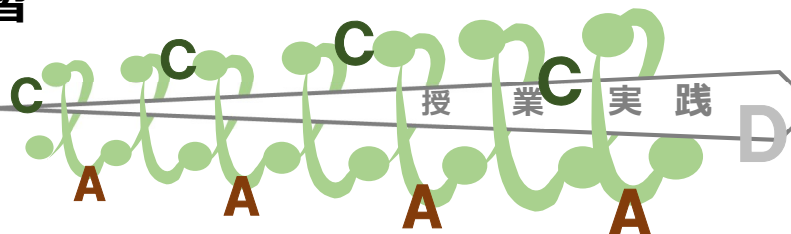
ここに示したものは、あくまでも一例です。周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。



生活単元学習

P 指導計画

- ・終末に「何ができるようになるか」
- ・個別の指導計画
- ・個別の教育支援計画



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

- Check5 : 学習活動をやりきった達成感を味わう
「できた!」「やったあ!」
- Check4 : 自分の思いや考えを相手に伝えようとする
「これは〇〇です」「〇〇するといいよ」
(活動に取り組む姿)(視線、表情の変化)
- Check3 : これからの学習活動への意欲をもつ
「次は〇〇をしたい」
「〇〇をこうするといい」
- Check2 : 学習活動への見通しをもつ
「〇〇したら、できるだろう」
- Check6 : 学習活動にのめりこむ
「…(無言)」
- Check1 : 単元に魅力や意欲、憧れをもつ
「すごい」「やってみたい」
「私もあのようにになりたい」
- Check7 : 本時の学びや知識、経験をもとに考える
「もっとよくするためには…」
「なるほど(納得する姿)」
「(日常生活と比較して)〇〇と同じだ」

生徒の
つぶやきや
様相から Check !



A 授業改善のポイント

- ☞ 単元に魅力や意欲、憧れをもつためには (Check1)
 - ・単元の導入において、子どもが直接体験する活動を取り入れることが大切です。体験を通して、憧れをもつ、意欲をもつ、願いをもつなどの姿につながります。
- ☞ 学習活動への見通しをもつためには (Check2)
 - ・子どもが自ら考えるだけでなく、過去の経験や子どもの願い等をもとに、教師と一緒に考える場面を設けることが大切です。方法が明確になると、子どもは見通しをもって活動に取り組む姿につながります。
- ☞ これからの学習活動への意欲をもつためには (Check3)
 - ・授業の終末において、本時の振り返りや単元を貫く願い等をもとに、これからの活動計画(指導計画)について見直す場面を設けることが大切になります。
- ☞ 自分の思いや考えを相手に伝えようとするためには (Check4)
 - ・自分の思いや考えを相手に伝える前提には、相手意識をもつことがあります。学習活動の中で様々な役割を担い、集団全体で単元の活動に協働して取り組めるようにすることで、相手意識をもつことができるようになります。
 - ・課題を解決したり子どもの願いを叶えたりするために、必然ある対話の場面を設けることが大切です。自分の考え等を相手に伝えたり、説明したりすることで、身に付けている知識や技能をさらに確かなものにすることができます。
 - ・自分の思いや考えを相手に伝える手段は、言葉だけではなく、子どもの視線や行動など、細かな変容を感じ取ることが大切になります。

- ☞ 学習活動をやりきった達成感を味わうためには (Check5)
 - ・仲間や教師の評価を聞いて、自分の変容や努力に気付くことができるような終末の場面を設ける必要があります。また、対話するのは、教師や仲間だけではなく、題材に働きかけたり自分の活動を振り返ったりすることも思考を広げ、深めることにつながります。
- ☞ 学習活動にのめりこめるためには (Check6)
 - ・無言で学習活動に取り組む姿も、自分自身や学習活動と対話しながら知識をより理解したり、新しい考えを形成したりしていることがあります。子どもの学びを妨げないことが大切になります。
 - ・そのためには、単元は実際の生活から発展し、児童生徒の知的障がいの状態や生活年齢等及び興味や関心を踏まえたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものでなくてはなりません。
- ☞ 本時の学びや知識、経験をもとに考えるためには (Check7)
 - ・例えば、もっと楽しいゲーム屋さんにするためには、ボールが当たりにくいように的の形や大きさ、置き方を変えたり、獲得できる得点を低くしたりするなど、子どもが知識や経験、各教科等の見方や考え方を生かしたり働かせたりできるようにすることが大切になります。
 - ・生活単元学習の学びを授業の中で終わらせるのではなく、学んだことを日常生活の中で発揮する場を設けたり、日常生活の中で学んだことと結び付けたりすることが大切になります。



ここに示したものは、あくまでも一例です。周りの仲間の実践や、特別支援学校学習指導要領解説、各教科等編なども参考にして授業改善を図りましょう。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善レポート（仮）

〇〇市立〇〇〇小学校

飛驒 花子

単元名：	学年：
単元（題材）で育みたい資質・能力	
学びに向かう力 人間性等	
思考力、判断力、表現力等	
知識及び技能	

実施日 ④ 9/12	時間・主な内容 ④ 第2時 (2けた)×(1けた)の筆算	視点 ④ Check3	振り返り（不十分さや改善点を簡潔に記入） ④ ・筆算の手順を説明するだけになってしまった。 ・図を根拠に、図と筆算を線で結びながら話すように指示したい。

単元の振り返り	
---------	--

資質・能力を育む
「主体的・対話的で深い学び」の手引き
—第2版—

令和2年2月4日

発行・編集 飛騨教育事務所

中村 好一	渡辺 英哉	清水 明彦	牛丸 勝	脇田 誠	小田 雅人
滝村 一彦	畑中 裕史	安藤 律子	石橋 信弘	加納 聡	今井 則雄
有志 智和	河瀬 康博	大蔭 孝志（東濃教事）	片山 達人（東濃教事）		
岩佐 泰典	大坪 稔	中西 史子	黒木 和実	原田有紀子	中垣 尚美
坂井 友美	中島 里美				

表紙題字：中村 好一 表紙版画：清水 明彦